

TSD リンクファイルの使用

TNTmips では、Google やマイクロソフト、NASA によって定義された固有のタイル構造を持ったタイルセットを、対応するウェブビューワやローカルの表示アプリケーションで使用できるように加工、処理が行えます。これらのタイルセット構造には以下が含まれます：

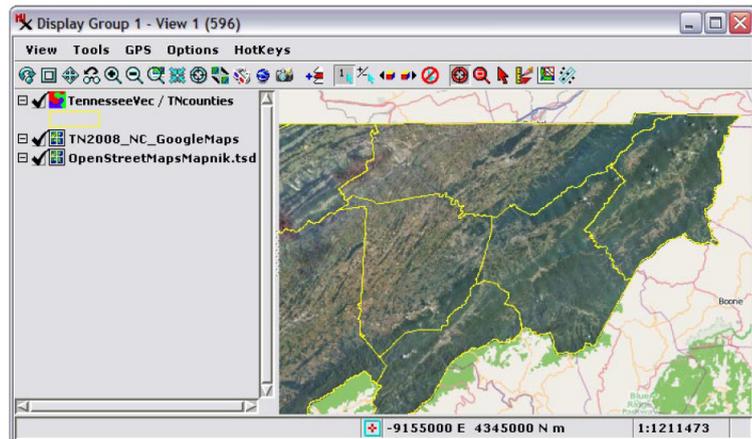
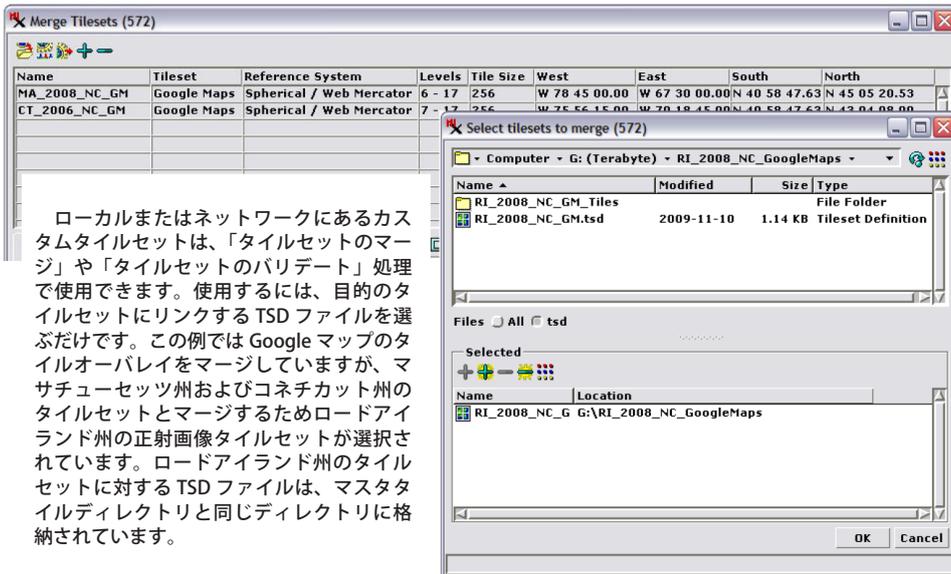
- Google マップ用タイルオーバーレイ
- Google Earth 用スーパーオーバーレイ
- マイクロソフト Bing Maps 用カスタムタイルレイヤ
- NASA の World Wind 用タイルレイヤ

各タイルセット構造には予めレンダリングされた何段階ものズームレベルが含まれており、それぞれが決められたサイズ、座標参照系、ファイル形式の多数の小さな画像タイルから構成されています。

TNT 製品を使うと、ローカルまたはネットワークドライブ、もしくはインターネット上にあるカスタムタイルセットにアクセスできます。これらのタイルセットを使用するには、タイルセット構造と場所がタイルセット定義 (TSD) ファイルによって定義されていなければなりません。TSD ファイルとは、小さな XML 形式のテキストファイルで、タイルセット構造へのリンクを記述したものです。TSD ファイルにはタイルセットの座標参照系や地理範囲、タイルサイズやファイル形式、格納されているズームレベルが記述されています (テクニカルガイド「タイルセット：タイルセット定義ファイルの構成要素 (Tilesets: Components of the Tileset Definition File)」)。また、タイルセット構成要素の格納場所 (ローカルまたはネットワーク上のタイルセットについては相対パス、遠隔のタイルセットについては URL) も記述されています。

TSD ファイルは TNTmips のタイルセット作成処理 (「タイルセットへのエクスポート」や「自動モザイク」、「タイルセットのマージ」) や「マッシュアップの公開 (Publish Geomashup)」処理で作成されます。「タイルセットへのリンク (Link to Tileset)」処理では、TNT 製品の外部 (または内部) で作成された、TNT 製品でサポートされているタイルセット構造に対して TSD ファイルを作成できます。TSD ファイルの名前はタイルセット名と同一で、拡張子は .tsd です。TSD リンクファイルは次の場所に置くことができます：

- ローカル (ローカルタイルセットのマスタディレクトリと一緒に)
- ローカル (ただしローカル、ネットワークまたはインターネットサイト上のタイルセットにリンク)
- インターネット上 (タイルセットと一緒に。TNT 製品から URL でアクセス)



ローカルまたはネットワークに格納したカスタムタイルセットは、「表示」処理においてタイルセットにリンクした TSD ファイルを選択することで表示できます (表示手順の詳細と遠隔タイルセットの表示の詳細は、テクニカルガイド「空間表示: 表示画面にタイルセットを追加する (Spatial Display: Adding Tilesets to Your View)」をご覧ください)。TSD ファイルを選択することにより、「タイルセットのマージ」や「タイルセットのバリデート」処理で使うローカルタイルセットを選ぶこともできます。

左のウィンドウには、次の 3 レイヤが表示されています：

- インターネット上で公開されているオープンストリートマップの Mapnik タイルセット
- TSD ファイルを使って選択した、テネシー州全体にわたる 1m 正射画像の Google マップ用ローカルタイルオーバーレイ
- テネシー州内の郡の境界線ポリゴンを黄色で示した、TNT ローカルベクタオブジェクト